



デザグリエ「実験哲学講義」第1巻(第二版)

資料登録番号
2008-19

フランス生まれの科学者ジョン・デザグリエ(1683-1744年)が英国王立協会でニュートンの自然哲学を啓めるために行った講義をまとめたものです。「実験哲学講義」(図1)は2巻組で、第1巻は1734年に刊行されましたが、当館が所蔵するのは、1745年刊の第二版です(第2巻は1744年初版本を所蔵)。

その第1巻448ページに「プラネタリウムの定義」という項があります。ここで出てくる「プラネタリウム」は、惑星(planet)の動きを再現する装置(-arium)で、「オーラリー」とも呼ばれるものです。1700年代初頭、ジョージ・グラハムが製作しましたが、最初のコピーがオーラリー伯爵の名のもとに披露されたため、スティール卿が「オーラリー」と名付けました。

デザグリエが「プラネタリウム」と呼んだこの装置は「天文学の研究に取り組む時間がなくても、天体の様子を知りたいと願う人々が、数日でいくつかの現象について十分な知識を得ることができ、特に、地球の動きに対する一般的な偏見から脱却できる」ようにすることが目的です。現代のプラネタリウムと同じですね。

図2の挿絵に描かれたオーラリーは高さ15cm、直径90cmで、太陽を中心とし、水星、金星、地球、火星、木星、土星が、それぞれ自分のペースで黄道十二宮を巡っていくものです。

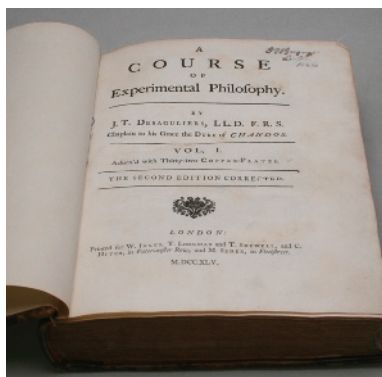


図1. 中表紙見開き



図2. 挿絵31“プラネタリウム(オーラリー)”

石坂 千春(科学館学芸員)